

深夜の4-1エリア間オープン！

2002年 8月17日 JGOTEV 中村 豊

1.はじめに

8月17日深夜帯に4-1エリア間のオープンが確認されました。
気象解析によりダクト発生条件と照らしあわせてダクトが発生しやすい状況であったか検証していきたいと思ひます。

< 17日のオープン情報 >

1-4でFMオープンしてるようです
横須賀からはキャリア&少し入感ですが1エリアのビッグン各局がFMで交信しています。レポートは59/59のです。

2.気象解析からダクト条件に照らしあわせ検証を行う

(1)勢力を強める高気圧に覆われて地上気圧や上空の高度が上昇し、乾燥空気による下降気流が卓越していたか？

地上天気図について着目します。

17日21時は台風が本州のすぐ南まで北上していたことがわかります。

地上天気図を見る限り本州付近は高気圧には覆われていません。

次に850hpa面高度に着目します。

こちらも台風を中心から日本海にのびるトラフが本州付近を縦断していて、高気圧の存在は確認できません。

850hpa面の湿数から上空の乾燥空気の流れ込みについて着目します。

本州付近では台風の北側に広がる湿潤域に広く覆われています。

上空は湿潤空気に覆われていたことがわかります。

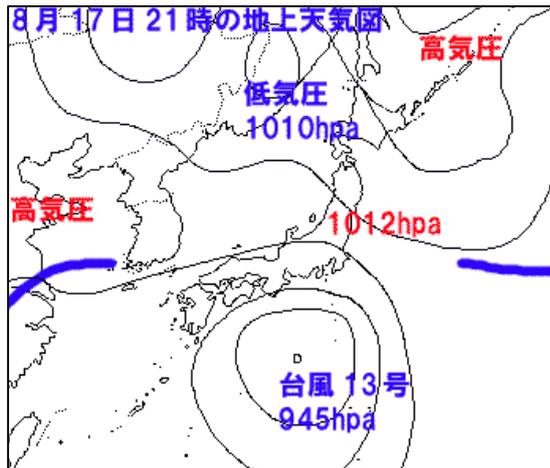
700hpa面の鉛直流について着目します。

本州付近では日本海側を中心に下降流域に覆われていますが、太平洋側では上昇流域に

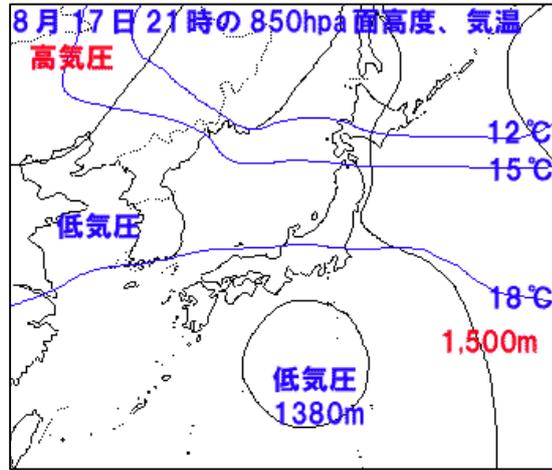
覆われていたことがわかります。

以上の解析から、本州付近では台風の北側に広がる雲域に伴う湿潤空気、上昇流域に覆われていたことがわかります。

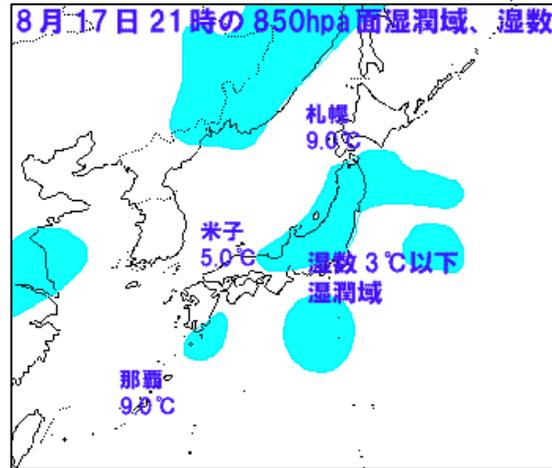
< 地上天気図 >



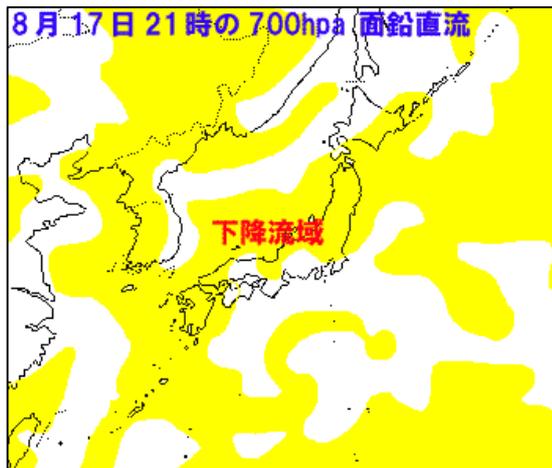
< 850hpa高度・気温分布図 >



< 850hpa湿数図・・・上空約1,500m付近の空気の乾燥状態 >
(湿数 = 気温 - 露点温度 ……湿数が大きいほど空気が乾燥している)



< 700hpa鉛直流図 >



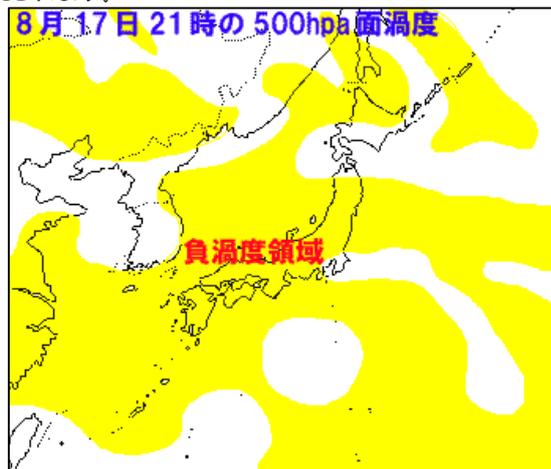
(2)中層大気である500hpa渦度図から負渦度領域に覆われていたか？

中層大気の500hpa渦度図を見ます。

渦度は(北半球では)高気圧性の流れが生じているときには負渦度領域として表現されます。

500hpa面の中層大気では本州付近は負渦度領域に広く覆われています。

これは南海上を北上した台風と沿海州付近の低気圧の存在から相対的に負渦度領域として解析されていると考えられます。



3.考察

今回のオープンは深夜帯との情報でしたが、21時の時点の気象資料からはダクトの発生は裏付けられませんでした。

しかしながら上空は高気圧性の負渦度領域に覆われており(ミッドナイト型オープンに類似)、オープンしていたときの気象資料が入手できないことが残念です。

今回のオープンに関する裏付けについては今後のさらなる詳細の解析を待ちたいと思います。